

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 共友会	代表者	岩尾 貢	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で暮らし続けることを大切に「ケアの流れを変える支援」「人生の最後まで寄り添う支援」「共生型サービスの実施」を行っている。 生きがいの持てる活動づくりとして「就労等の日中活動支援」「若年性認知症の方への支援」「高齢障害者支援」を実施している。 相談支援の拠点づくりとして「地域の方が気軽に立ち寄れる場」「誰もが相談できる場」を作っている。
事業所名	小規模多機能ホーム やたの	管理者	佐野 正人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	5	1	2	1	0	2	0	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①利用者一人ひとりの「～したい」ことを計画作成担当者や利用者個々の担当スタッフが中心となり定期的に確認し、プランに入れていく。その内容を支援時に意識できるように、毎日の申し送りの場面で確認する機会を作る。</p> <p>②家族が意見や要望が伝えやすい関係及び連携を深めるために、家族と交流できる機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族を交えてのカンファレンスの開催</li> <li>家族と職員及び家族同士が交流できる企画を検討する。企画によって地域の方も交えて開催できないかを検討する。</li> </ul>	<p>①に関しては具体的にしたいことを伝えていただける利用者については担当スタッフが中心となり、実現に向けて取り組むことができた。しかし、利用者本人のしたいことを表現し難い方については、その方の本当にしたいことを引き出すことが難しく、継続した課題となっている。</p> <p>②について計画作成担当者や利用者の担当スタッフが必要に応じて電話にて家族と話をすることができているが、カンファレンスという形で利用者本人や家族などが集まって話をすることに難しさがあつた。利用者個々の支援を考える時に、スタッフ間での話し合いは行っている。また、話し合った内容を実践する前に利用者本人や家族に確認し、意向の確認を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常勤スタッフ全員の意見が反映されていることについて、自己評価表のメンバーに全員の名前が載っていないが、どのように取り組んでいるのか？ →常勤、非常勤全員に自己評価表を配り、個々で自己評価表を作成してもらいました。その後、個々に作成した自己評価表を持ち寄り、今年度は4回に分けてミーティングを実施し、意見交換を行いました。ミーティングに参加できたスタッフ、できなかったスタッフがいます。事業所全体の自己評価表を作成する時に、スタッフ個々で作成した自己評価表とミーティングで出た意見をまとめて作成しています。</li> <li>事業所自己評価項目の「連携・協働」については、ミニ地域会議や地域連絡会にも参加してもらい、出来ていると思います。</li> </ul>	<p>①利用者一人ひとりの「～したい」ことを計画作成担当者や利用者個々の担当スタッフが中心となり定期的に確認し、プランに入れていく。意思表示が困難な方については、ミーティングやカンファレンスを活用し、本人の視点で考えていく。プランの内容を実践していく。</p> <p>②家族が意見や要望が伝えやすい関係及び連携を深めるために、家族と交流できる機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族を交えてのカンファレンスの開催</li> <li>家族と職員及び家族同士が交流できる企画を検討する。企画によって地域の方も交えて開催できないかを検討する。</li> </ul>

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<p>①地域の方が事業所を訪問できるように、事業所の中での企画の立案と地域の方への案内</p> <p>②訪問されている地域の方に事業所の入りやすさについて感想を聞く。地域で開催されているサロン等に参加されている方から事業所のイメージや入りやすさを聞いてみる。</p> <p>③事業所外周の環境整備 ・玄関周りの整理整頓、季節感が感じられる装飾や花等を飾る。</p> <p>④不審者対策として対策方法の共有や訓練を行う。</p>	<p>①②については、取り組めていない。</p> <p>③について以前は地域の方がボランティアで花壇の世話をさせていただき、整備されていたが、現在、自分たちで整備する時間が持てず、整理整頓や季節感を感じられる状況には至っていない。</p> <p>④について、防犯対策として燃えやすいものを事業所の周りに置かないなどの対策を行っている。今年度、不審者対策について研修・訓練計画に防犯対策の項目を計画したが、準備不足等で実施までには至らなかった。</p>	<p>・事業所内・外に、不快な音や臭い等はないですかという項目について、気にならないです。</p> <p>・事業所に入りやすい工夫がなされていますかという項目について、事業所として地域のサロンや行事にスタッフや利用者さんが参加してもらっていますが、地域の人が事業所を訪問するということが難しいです。何も無いのにふらっと来にくいのです。何かイベントなどがあり、お知らせしてくれれば、参加してみようかという気持ちになるのではないかと。音楽を聴くイベントがなどの企画があれば、地域の人も来やすいと思います。</p> <p>→地域の方が寄れるような単発的な企画を考え、やたの新聞やチラシ等で地域の方にお知らせしていくことを検討してみます。</p> <p>・町内の人で手芸が得意な方がいます。そのような方など、地域の中で教えてもらえる人を探してはどうか。</p> <p>→地域の情報を得ながら、地域の方で手芸などを教えてもらえる人や活動に協力してもらえそうな方を探してみます。</p> <p>・町の文化祭の時に作成したものを展示することも良いのではと思います。事業所の活動で生け花している方や習字をしている方などが文化祭に作品を出すことを目標に取り組んでもよいのではないかと。</p>	<p>①地域の方が事業所を訪問できるように、地域の方が寄れるような単発的な企画や法話を考え、やたの新聞やチラシ等で地域の方にお知らせする。</p> <p>事業所を訪問されている方や地域のサロンに参加されている方等に、どのような企画や行事があれば参加しようと思うのかを確認する。</p> <p>②事業所外周の環境整備 ・玄関周りの整理整頓、季節感が感じられる装飾や花等を飾る。</p> <p>・利用者が活躍できる場として、装飾品を作ることや花を飾ること等の取り組みを通じて、町内の文化祭に展示できることを目標とする。地域の方で作品などを教えてもらえる人や場所を探す。</p> <p>③不審者対策としてマニュアルを見直し、対策方法の共有や訓練を行う。</p>
----------------------------	---	---	---	---

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>①事業所通信（やたの新聞）の内容の見直し、配布場所も検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模多機能ホームやたのとして、地域の方にどのようなことができるのかを明確にして、やたの新聞に載せる、民生委員や運営推進会議参加者に伝える機会を作る。</li> <li>・矢田野地区の他の町（6町）にやたの新聞を配布し、事業所のことを知ってもらう。</li> </ul> <p>②地域の方が困ったことを気軽に相談してもらえるように、事業所の職員と地域の方が顔見知りになれることから始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で開催しているサロンに職員と利用者が必ず参加する</li> <li>・事業所通信（やたの新聞）を活用して「コーヒーでもお出しします。散歩の途中の休憩にどうぞ」などと事業所に気軽に来てもらえるような案内を行う。</li> <li>・ミニ地域ケア会議に職員が交代で参加する。</li> </ul>	<p>①について、事業所通信の活用については定期的に内容を見直ししたり、配布場所を検討している。今年度は民生委員の協力を得て、矢田野地区の民生委員の会議に配布することが出来た。</p> <p>ただ、事業所通信を定期的に見直し、興味を持ってもらえる内容や活動の案内が出来るまでの取り組みには至っていない。</p> <p>②について、地域の方の困りごとなどの相談を受けることができる取り組みについては、全スタッフではないが、計画作成担当者が中心となり、おわたサロンに参加し、地域の方と交流することで、顔なじみの関係が出来つつある。</p> <p>ただ、事業所通信の中で気軽に訪問につながる内容を入れるなどの取り組みまでは行えていない。</p> <p>ミニ地域会議の参加については、案内があれば、スタッフが交代で参加出来ている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員の会議に事業所の通信を何度か配布しました。このような活動をしているということをお知らせしました。</li> <li>・今後、会議に参加し、取り組みについて話ができる機会を作ることを検討しても良いのではないかと。</li> <li>・事業所通信に今後の行事などの予定を入れておくことで、参加につながるのでは？</li> <li>・おわたサロンの運営に協力してもらっていることで、送迎があることで参加できている方もおられ、助かっています。</li> <li>→サロンに参加することで参加されている方から相談を受けたり、1年間継続的に参加することで参加されている方の身体的な変化に気づく状況があるため、継続して参加していく環境を今後も整えていきます。</li> <li>・町内ではいきいきサロンも開催しており、町の方がいきいきサロンやおわたサロンなどを選んで参加できることは良いことだと思います。</li> </ul>	<p>①事業所通信（やたの新聞）の内容を定期的に見直し、興味を持ってもらえる企画・活動の案内、気軽にコーヒーでも飲みに来ることにつながるような案内をミーティング等で話し合い、内容に入れていく。</p> <p>②矢田野地区の6町の民生委員の集まりに継続してやたの新聞等を配布し、集まりに参加し、事業所のことや取り組みについて話ができる機会を持つ。</p> <p>③地域の方が困ったことなどを気軽に相談してもらえる関係性が出来るように、継続して地域で開催しているサロンに参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談を受けた場合は記録に残し、必要に応じて民生委員や地区の高齢者総合相談センターと連携していく。</li> <li>・地域で開催しているサロン等に継続して参加し、参加者の状態や変化を知る。</li> </ul>
-----------------------	--	---	--	--

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>①事業所がある地域で開催される行事やサロン等に継続的に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の買い物などを利用者と一緒に出かける。</li> <li>・地域の行事等の情報を得て、参加していく。</li> </ul> <p>②利用者個々の地域で行われている行事に参加できる、社会資源を活用できる支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人との関わりの場面やカンファレンスの場面で軒下マップを持参し、得られた情報はすぐに軒下マップに記載していく。</li> <li>・一人ひとりの軒下マップを参考に、記載されている人や場所などの関係を知り、支援につなげられることがないか本人や家族と一緒に考える時間を持つ。</li> </ul>	<p>①事業所がある町の行事などには参加できており、利用者やスタッフと町の方の交流につながっている。</p> <p>②利用者個々の地域で開催されている行事やよく利用されていた場所に行く等の支援が行えていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者以外のご近所の心配な方に、事業所はかかわっていますかという取り組みについて、どのようなことをされていますか？</li> </ul> <p>→おわたサロンで町の方と関わっている程度です。その中で以前に比べて歩行する力が落ちている等の確認を行っています。</p> <p>→地域の方で心配な方がおられ、相談を受ければ個別に訪問したり、声をかけるなどの支援はできます。実際に小規模多機能のサービスは利用されていない方のところにお弁当を届けるなどの支援を行ったこともあります。</p> <p>→民生委員さんと相談しながら、依頼があった時は必要な支援を行うこともできます。</p>	<p>①事業所がある地域で開催される行事やサロン等に利用者が継続して参加できるように支援する。</p> <p>普段の買い物などを利用者と一緒に出かける。</p> <p>②利用者個々の地域で行われている行事に参加することや個々の地域で活動できる時間を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人との関わりの場面やカンファレンスの場面で軒下マップを持参し、得られた情報はすぐに軒下マップに記載していく。</li> <li>・一人ひとりの軒下マップを参考に、記載されている人や場所などの関係を知り、支援につなげられることがないか本人や家族と一緒に考える時間を持つ。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>①運営推進会議の中で地域のことや地域の中で課題となっていること、見守りや支援が必要と感じる地域の方の情報交換などができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で開催しているサロン等に継続して参加し、参加者の状態の確認と情報収集する。</li> <li>・その状況から事前に民生委員と情報共有する。</li> </ul> <p>②継続して運営推進会議に職員が交代で参加し、その中で取り組みや意見が伝えられる環境を整える。</p>	<p>①地域で開催されているおわたサロンに1年間継続して参加し、サロンに参加されている方と関係を作りながら、その方の状態の変化などを確認することが出来た。ただ、その情報を民生委員や運営推進会議で共有するまでの状況には至らなかった。</p> <p>②運営推進会議には事業所のスタッフが交代で参加できている。参加したスタッフからは地域の方の話が聞けて、地域のことが分かる機会になったという声が聞かれた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の中で町の方の個人情報を伝えるににくい状況はあります。別で相談する形がよいと思います。</li> </ul> <p>→個人の相談という形ではなく、町と全体として困っていることを相談したり、情報を伝えるなどの機会になればと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の内容については具体的に報告されており、分かりやすいです。</li> </ul>	<p>①運営推進会議の中で地域の中で課題となっていることや事業所として取り組みたいことや取り組んでいることの検証等を参加されている方と一緒に考えることができる場とする。</p> <p>②継続して運営推進会議に職員が交代で参加し、その中で取り組みや意見が伝えられる環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加した職員がミーティングで他の職員に会議の内容や感想が報告できる環境を整える。</li> </ul>

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>①マニュアルと訓練を連動させていき、実践できるマニュアルに見直していく。 ・発電機の使用訓練の実施、訓練設定を毎回、変えることでより実践に近い訓練を行う。</p> <p>②災害時等に事業所としての備えや設備を地域の方が分かっている状況を作る。 ・事業所で行う訓練に地域の方の参加協力を依頼する。 ・町の防災士などと話し合える場を設ける。</p>	<p>①令和6年10月に夜間想定での火災訓練を実施した。その中でグループホームとの連携の仕方も確認している。 災害BCP訓練として、発電機の使用方について訓練を行う予定。</p> <p>②地域の方と一緒に訓練を行うことができておらず、どのように行っていくのが今後の課題となる。 今年度は10月20日に小松市総合防災訓練にスタッフが2名参加することが出来た。</p>	<p>・事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）を知っていますかという項目について、どのような内容なのか？ →事業所ごとに防災計画やマニュアルを作成し、設置していますが、地域の方にお知らせするまでには至っていません。今後、訓練を地域の方と一緒にいながら、見直したり、考えてもらえるような機会にしていきたいと考えています。 →今年度よりBCPとして災害が発生した後に、事業を継続させるための計画を作成しています。この内容についても皆さんにお知らせし、一緒に考えてもらう機会を持ちたいと考えています。 →今年度より災害マニュアルとして整備しているものを参考に実際に訓練を行い、訓練後マニュアルを見直し、より実践で活用できるように修正を行っています。</p> <p>・災害時はこの事業所に発電機があるということが分かっていたら、町内でも活用できるのではと思います。 町内で災害の訓練を行う時にお互いに協力できればと思います。</p> <p>・備蓄についてどのようになっていますか？ →災害時の備蓄については保管する場所や管理方法のこともあり、十分に取り組みしておらず、課題となっています。</p>	<p>①火災マニュアルだけでなく、全ての災害マニュアルと訓練を連動させていき、実践できるマニュアルに見直していく。 ・発電機の使用訓練の実施、 ・災害時の備蓄品の確保・管理方法を検討する。</p> <p>②災害時等に事業所としての備えや設備を地域の方に知ってもらう機会を作る。 ・事業所で行う訓練に地域の方の参加協力を案内する。 ・町で実施されている訓練に参加させてもらう。 ・町の防災士などと話し合える場を設ける。 ・発電機などの設備、備蓄品などの管理等について地域の方の意見をj得る。</p>
----------------------------	---	--	---	--

